

## B-2. 「あっ、ここ船が通るじゃん！」 富士松南幼稚園(愛知県刈谷市) <4歳児・5月>

### 〈幼児の様子〉

A児とB児が、砂場で海を作っている。そこへ、C児・D児・E児が来て、D児が「あっこ、船が通るじゃん」と近くにあった船をB児の掘っている所に置いたことで、5人は船を動かそうという思いをもった。

幼児の様子と教師のかかわり	幼児の姿から思うこと
<p>C児がジョーロの水を船の真上から掛ける。</p> <p>その様子を見て、B児「動かんね」と言い、船の後方に水を掛ける。その様子を見て、A児も「ジョーロ、もってこよ」と水を汲みに行き、自分の掘っていた角から水を流す。</p> <p>1人が水を流すのを見てから、次の幼児が流す、という具合に順番に流す。みんなが水を流す中、E児が船の前方を掘る。すると、水が流れ込みその勢いで船が少し動く。</p> <p>動いたのを見たA児が「あっ動いた」と少し興奮して言う。教師も「本当だ、動いた」と船に近づいていく。</p> <p>A児・B児・C児はじっと見ている。D児はE児の横に行き、E児と同じように掘り出す。</p> <p>船は掘ると少し動くが、その場でゆらゆらしているだけで前には進まない。</p> <p>教師はバケツやジョーロを幼児の近くにたくさん置く。 A児がジョーロを2つ持つ。 教師「A君、今度2つで流すの?行くかな」</p> <p>A児が船の側面の両側から水を流すが、進まない。E児はそれを見て「A君、違う。あっちから」と船の後方を指差す。 A児はよく分からない様子。 教師はE児の言っていることがA児に伝わるように「どこ?」とE児に聞き「A君の掘った所だって」と伝える。 A児が場所を変えると、B児もバケツを持ってA児の隣に立つ。</p> <p>教師「A君、B君、用意はいい?セーの」 A児とB児は一齐に水を流す。 A児とB児はじっと船を見ている。 水の勢いで船がゴールまで流れる。 C児・D児・E児は「やった」「行った」と大喜び。教師が「やったね」と声をかけると、二人とも嬉しくてにやにやる。 二人は「もう一回やろう」「水もってこよ」「ここからスタートだよ」と、言いながらバケツで流す、船の後方から、横から真上から流す、スタートに戻してから流すなどいろんな流し方をする。</p> <p>A児は船の真上から「だめなんだよなー」と楽しそうに水を流す。それを見て、B児も「だめなんだよなー」と言う。</p>	<div style="text-align: center;"> </div> <p>他児がしていることをとても興味深く見ている。一人ずつ順番にやるのは、前の子がやったのを見て、自分はどうしようと考えているからだろう。</p> <p>今まで動かなかった船が動いたのを見て、期待感が高まってきたようだ。 D児はE児が掘って動いたから、同じことをしたら動くと思ったようだ。</p> <p>いろいろと試せるようにバケツやジョーロをたくさん置いておこう。 A児はジョーロの数を増やしたら船が進むと考えたようである。</p> <p>E児は流す方向に気が付いて「船の両側からでなく後ろから流さないと動かない」ことを教えているんだな。 A児はE児の言うことを受け入れようとしているが、理解できないようなので、A児に分かるいい方をしよう。 B児はE児の言うことをよく聞いていたようである。そして、バケツの方がたくさん入るから勢いよく流れると思ったのかな。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>今まで自分がしたことだけでなく、他児がしたこと、いろいろ試そうとしていることが分かる。</p>

### ポイント

遊びの中で、子どもたちが他の友達をよく観察してそこからヒントを得たり、だめな方法を試してみたりして、自分なりに考えていく力を身につけていく様子がわかります。保育者が子どもの思いに共感したり、適切な材料を提供したりすることによって、子どもたちの探究心が深まり、さらに遊びが展開されていきます。